様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年　5 月　25 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2007～2008
課題番号：19820011
研究課題名（和文）　大西洋を渡るオリシャ崇拝：
アメリカ黒人の社会運動とともに変容するナイジェリア宗教
研究課題名（英文）　Trans-Atlantic African Yoruba Religion and its
Impact upon the African American Orisa Worship Movement

研究代表者
小池　郁子（ＫＯＩＫＥ　ＩＫＵＫＯ）
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：６０４５２２９９

研究成果の概要：
本研究は、グローバル化、異種混交化する現代社会において、現実的に破綻する傾向にある原理主義的な社会運動に代わる新たな運動の在り方、ならびに、異なる民族（人種）、宗教を排斥するのではなく、それらと共存できる文化実践について文化人類学的視点から考究を試みた。
具体的には、アメリカ黒人の社会運動（オリシャ崇拝運動）と、彼らアメリカ黒人と宗教、文化的に交流しているナイジェリアの宗教組織をとりあげた。そのうえで、急速に保守化する現代社会において、少数派の社会政治的権利や宗教文化実践の権利をもとめる社会運動が、自身とは異なる民族（人種）や宗教集団といかに共存しながら維持、拡充できるのかを検討した。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２００７年度 | 1,320,000 | 0 | 1,320,000 |
| ２００８年度 | 1,350,000 | 405,000 | 1,755,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,670,000 | 405,000 | 3,075,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：オリシャ崇拝、黒人らしさ、抵抗、パフォーマティヴィティ、文化接触、植民地主義、ナイジェリア、アメリカ合衆国

## １．研究開始当初の背景

これまでの研究では、アメリカ黒人（アフリカ系アメリカ人）による社会運動について、その歴史的展開を追いつつ、文化人類学の視点から調査研究をしてきた。その過程でえられた研究開始当初の背景について、以下に述べる。

本研究が対象とするアメリカ黒人の社会運動は、アメリカ合衆国の社会にいまもなお根強く残る人種主義体制（黒人差別）に抗う

ことを目的として組織され、異なる「人種・宗教」に対して排他的な態度をとってきた。この社会運動は、1950 年代半ば、ブラック・モスレム（黒人イスラム）や公民権運動の潮流をくんでニューヨークで勃興した。彼らは「反白人・反キリスト教」を実践する集合的活動拠点（「オヨトゥンジ村」）をアメリカに創設した。このオヨトゥンジ村は、アメリカ黒人が西アフリカヨルバの神々を崇拝し（オリシャ崇拝）、伝統的な生活様式を再現するために厳格な規律のもとで共同生活を実践した一種のコミューンである。

こうした研究開始当初の背景を踏まえたうえで、本研究では以下の事象に着目することにした。

本研究がとりあげる「オリシャ崇拝」は、大西洋奴隷貿易によって西アフリカから移動を迫られた主にヨルバ人奴隷の宗教・文化が、新世界での宗教弾圧や迫害のもとで植民者のキリスト教（カトリシズム）と融合して誕生した。アメリカには 20 世紀初頭からキューバ共和国やハイチ共和国をはじめとするカリブ海域からの移民によって導入された。

近年、アメリカでは、アメリカ黒人のみならず、「白人」と表象される集団、すなわち、アメリカ白人や非黒人系カリブ海域出身者なｄの間にもオリシャ崇拝が急速に広がりつつある。1990 年代半ば以降、彼らの多くは真正（原型）とされるナイジェリアのオリシャ崇拝の技術・知識、たとえば、司祭になるためのイニシエーション・託宣・通過儀礼・祭などを経験、習得するために、ナイジェリアの崇拝組織を訪問、長期滞在したり、ナイジェリア人司祭をアメリカの崇拝組織に招いたりすることに意義をみいだしている。

そこで本研究は、オリシャ崇拝という西アフリカ由来の宗教・文化を軸に、アメリカ黒人の社会運動と「アフリカ人（ナイジェリア人）」がこれまで以上に交錯するようになってきている現象に着目し、「研究の目的」で述べる点について考察する。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、グローバル化、異種混交化する現代社会において、現実的に破綻する傾向にある原理主義的な社会運動に代わる新たな運動の在り方、ならびに、異なる「人種・宗教」を排斥するのではなく、それらと共存できる文化実践の在り方について文化人類学的視点から考究することである。すなわち、急速に保守化する現代社会において、少数派の社会政治的権利や宗教文化実践の権利をもとめる社会運動が、自身とは異なる「人種・宗教」集団といかに共存しながら維持、拡充できるのかを分析する。

具体的には、アメリカ黒人が西アフリカ・ナイジェリアの伝統宗教（ヨルバ民族のオリシャ崇拝）を核として組織した社会運動と、そのアメリカ黒人の運動と相互交渉的な宗教・文化活動を展開しているナイジェリアの宗教組織をとりあげる。これまでの研究では、少数派による原理主義的な社会運動（いわゆる戦略的本質主義にもとづく運動）の限界が指摘されて久しい[Appiah 1997、Hall 2000、小池 2003]。また近年アメリカでは、アメリカ黒人のみならず、アメリカ白人や非黒人系のカリブ海域出身者の間にもオリシャ崇拝が広がりつつある[Neimark 1993]。

そこで本研究は、アメリカ黒人の社会運動が、ナイジェリアの宗教組織との宗教・文化的な交流を展開しながら、原理主義的運動とは異なる方法で発展している過程を調査研究する。と同時に、オリシャ崇拝というヨルバ民族の宗教・文化を軸に、アメリカ黒人の社会運動と「ナイジェリア人（ヨルバ人）・白人」がこれまで以上に交錯するようになってきている文化接触の現象に注目する。そして、資料文献の収集・精査ならびに現地調査をもとに、以下の二点について考察する。(1)

アメリカ黒人との接触によって、ナイジェリアのオリシャ崇拝がいかに変容しつつあるのか、⑵変容を遂げるナイジェリアのオリシャ崇拝によって、アメリカ黒人の社会運動の組織概念や実践形態はいかに再構築されているのか。

３．研究の方法

本研究課題の研究方法は大きく４つにわけられる。

⑴資料文献の収集・精査

①ナイジェリア・ヨルバ人関係：ヨルバ・ディアスポラ、ヨルバ・ナショナリズム。オリシャ崇拝、イファ託宣、供犠。ポスト植民地期の社会政治、歴史、文化、経済。国内の宗教的競合（キリスト教･イスラム･伝統宗教）。宗教における性、ジェンダー。

②アメリカ・アメリカ黒人関係：抵抗文化、若者文化、大衆文化。黒人運動（公民権運動、ネイション・オブ・イスラム、パンアフリカニズム、アフロセントリズム）。黒人性、アフリカ性。第二次世界大戦以降の社会政治、文化、経済。人種、エスニシティ。性表象、身体表象、ジェンダー。宗教と文化的価値観（キリスト教・イスラム・アフリカ系宗教・スピリチュアリティ）。

③ナイジェリア・カリブ海域からヨーロッパ・アメリカへの移民関係：移民の宗教・文化実践、コミュニティ形成、人種・民族観。アフリカ系宗教（オリシャ崇拝・サンテリア・カンドンブレ）の変容と再構築。

以上に関して、日本（東京ほか）、ヨーロッパにて資料文献の収集・精査をおこなう。

⑵資料文献の収集・精査をふまえた研究項目

①ヨルバ・ディアスポラ

アメリカやヨーロッパへ移民として渡ったヨルバ人の社会政治・宗教文化活動について調査。(a)おもにヨルバ人・ハウサ人・イボ人の三民族からなるホーム（ナイジェリア）の社会政治への示威活動。(b)ディアスポラ社会（アメリカ・ヨーロッパ）でのネットワーク形成。(c)パンアフリカニズム的な文化運動におけるヨルバ・ディアスポラの役割。

②オリシャ崇拝実践

ナイジェリアとアメリカのオリシャ崇拝組織における宗教実践・共同体運営について調査。(a)崇拝様式：日々の儀礼・年中行事の種類と内容、(b)崇拝者層：崇拝者の社会的、経済的、文化的背景、(c)崇拝組織の構造：宗教上の家族構造とネットワーク形成、託宣司祭と顧客との関係、託宣司祭のもとに通う顧客数とその理由、(d)司祭集団：司祭が頭に宿す神の種類とその神話、司祭になるためのイニシエーションの過程と費用、司祭集団の階層分化。

③文化接触

ナイジェリア人とアメリカ黒人のオリシャ崇拝組織の文化接触について調査。(a)ナイジェリア人司祭によるアメリカ黒人や「白人」崇拝者の受け入れ状況、大西洋横断的なネットワーク形成、(b)宗教的知識や権威の商品化、(c)オリシャ崇拝の真正性の創出。

⑶言語習得・翻訳

調査研究の対象であるアメリカ黒人とナイジェリア人がもちいるヨルバ語（ナイジェリアの主要三言語）の中級程度の文法、会話を習得する。そのうえで、儀礼にもちいられる用語や詠唱歌などの内容を記録、翻訳する。さらに、アメリカ黒人のあいだでみられるスペイン語化されたヨルバ語（オリシャ崇拝の儀礼用語）を翻訳する。

⑷ 学術発表・論文投稿

資料・文献精査の結果をまとめ、『人文学報』『コンタクト・ゾーン』に投稿する。また、6 月の「日本文化人類学会」で学術発表をおこなう。

４．研究成果

本研究課題の成果は大きく２つにわけられる。

⑴本研究では、アメリカ黒人の社会運動（オリシャ崇拝運動）におけるつぎの事象について考察を試みた。すなわち、オリシャ崇拝のなかでもより真正であると解釈されるナイジェリアのオリシャ崇拝をもとめて、ナイジェリアとアメリカのあいだでみられる宗教的な移動に着目し、その移動によって生じる文化接触について考察した。そのうえで、同じ「人種」や「抑圧（被害者）の歴史」を共有しているとされながらも「近代／未開、抑圧／被抑圧」という植民地主義的な関係に位置づけられてきたアメリカ黒人とアフリカ大陸の黒人（ナイジェリア人）が、オリシャ崇拝を通じて積極的に交流する社会的、文化的な要因を検討した。

以上を踏まえて、本研究は、オリシャ崇拝の真正性をめぐってアメリカ黒人とナイジェリア人が相互交渉的な関係を構築しようとする文化行為は、それぞれ以下の理由から促進されていることを明らかにした。オリシャ崇拝を実践するアメリカ黒人が、ナイジェリアでオリシャ崇拝の知識と技術を経験しようとする背景には、彼らが活動するアメリカのオリシャ崇拝・コミュニティのなかで宗教的権威（名声）を獲得したいという目的がある。一方、ナイジェリアでオリシャ崇拝・コミュニティを運営するナイジェリア人司祭が、アメリカ黒人を顧客（成員）として受容する背景には、アメリカで就学・就業機会を獲得することや宗教・文化活動の市場を拡大するという目的がある。さらに、両者のこのような文化接触はナイジェリアとアメリカのオリシャ崇拝につぎの変化をもたらしている。ナイジェリア人司祭は、ナイジェリアでは伝統的に承認されていない儀礼をアメリカ黒人の要求に応えるために執行している。また、アメリカ黒人はナイジェリアのオリシャ崇拝・コミュニティで異宗教が共存していることを実際に体験することで、彼らのオリシャ崇拝運動の原理主義的な性質をとりわけ実践レベルにおいて弱めつつある。

⑵本研究からは、以下のことが明らかになった。すなわち、オリシャ崇拝運動は、1950年代後半に、「反白人・反キリスト教」主義を標榜して組織化され、集合的な運動が実践された。その後、この運動は、1980年代半ばにオヨトゥンジ村から成員が大量に流出するという転換期を迎えたが、「反白人・反キリスト教」主義と、集合的な運動実践という形態を変化させながら現在もなお展開されている。以上を踏まえれば、黒人らしさを単純に抵抗とみなすことはできない。

アメリカの黒人にみられる黒人らしさとは、礼賛されるにしろ非難されるにしろ、アフリカのイメージと関連づけて解釈されてきた。しかしながら、オリシャ崇拝者は、アフリカを文明と文化で捉え直すことで黒人らしさそのものを定義し直した。これによって、黒人らしさの実践とは、もはや抑圧的な白人の支配文化にたいする抵抗ではなく、能動的に実践できる伝統や文化を創り出し、その伝統や文化を共有する社会空間を形成するための共同性を編み出すことになったのである。オリシャ崇拝者は、この共同性にもとづいて築かれた社会空間にかぎってではあるが、社会の周縁ではなく中心に身を置くことができる。さらに、彼らはオリシャ崇拝をパフォーマティヴに実践することで自己と他者とのあいだに信頼関係を築き、つながりの感覚を創出している。このつながりの感覚は、アメリカのオリシャ崇拝者のあいだにとどまるだけではなく、固定的な民族や宗教の枠組みをこえてひろがる可能性を呈している。

また、オリシャ崇拝運動では、アメリカ黒人とアフリカ（ナイジェリア人）との文化接触が相互交渉的におこなわれている。この背景には、真正なオリシャ崇拝をめぐる両者のやりとりが認められる。なお、こうした両者の相互交渉をきっかけにして、オリシャ崇拝

運動とそれに触発されてアメリカの各地に根づくハウスは、人種的、宗教的に包摂的な境界を形成し始めている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）
①小池郁子
「アメリカ合衆国におけるオリシャ崇拝運動―集合的崇拝拠点の聖地化―」
『人文学報』査読無、96 巻、2008、1-78 頁

②小池郁子
「複数文化接触領域としてのオリシャ崇拝―アフリカの神々を崇拝するアフリカ系アメリカ人の社会運動の展開」
『コンタクト・ゾーン』査読無、3 巻、2009、頁未定（掲載決定）

〔学会発表〕（計　２件）
①小池郁子
「アフリカの神々を崇拝するアフリカ系アメリカ人の社会運動の再編
―集合的活動拠点と個人崇拝組織とのつながり」
第 41 回文化人類学会研究大会、2007.6.3、名古屋大学

②小池郁子
「アメリカ合衆国における黒人運動
―オリシャ崇拝・コミュニティと地域社会との関係」
第 42 回文化人類学会研究大会、2008.6.1、京都大学

〔その他〕
小池郁子
「信仰の伝播」松田素二・加藤泰建・須藤健一・上杉富之・棚橋訓・永渕康之編　『文化人類学事典』丸善　2009 年、266-269 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
小池　郁子（ＫＯＩＫＥ　ＩＫＵＫＯ）
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：６０４５２２９９

(2)研究分担者

(3)連携研究者